

普及活動情勢報告（平成30年月7分）

高吾農業改良普及所

J A コスモスの夏秋高糖度トマト「ぴゅあトマト」目慣らし会の実施



講習を熱心に聞く生産者

6月29日にJ A コスモス吾川支所にて夏秋高糖度トマト「ぴゅあトマト」の目慣らし会が行われ、3戸の出席があり、色目統一を行いました。

普及所からは夏期の栽培管理と天敵利用について講習を行いました。生産者からは「生育初期の灌水管理を見直さないといけない」といった声があり、今後の課題として挙げられました。

今後も普及所は、2週間ごとに現地巡回を行い、果実糖度や土壌の分析結果に基づいて栽培管理を指導していきます。

6次産業化を進めよう ～佐川町産烏龍茶の販路拡大～



チーム員で烏龍茶を試飲

7月9日に、佐川町「お山の茶明郷園」にて、第1回6次産業化支援チーム会を開催しました。

澤村代表が淹れた烏龍茶を試飲し、チーム員が色や香りなどを確かめました。その後、30年度の計画について協議し、商品を知ってもらうための販売促進活動が重要であることなどを共有しました。アドバイザーの紹介で高知市内の中華料理店代表者2名に烏龍茶商品の紹介をすることが決まり、7月16日に澤村代表らがPRしました。

今後も、チーム会を開催して販売戦略を検討し、6次産業化を推進します。

青年農業士中央西ブロック連絡協議会研修会



イチネン農園ハウス視察

6月26日、青年農業士中央西ブロック連絡協議会が、日高村の（株）イチネン農園ハウスとJ A コスモス日高支所トマト選果場で研修を行いました。高知市、土佐市からの参加も含め、計8名の出席がありました。参加者は栽培方法や施設・機械、出荷場のしくみなど熱心に質問しました。

普及所では、今後の研修会が継続できるよう助言し、青年農業士の資質向上を図っていきます。

仁淀川流域茶の集団販売活動



茶のPRを行う様子

6月30日に愛媛県の「エミフルMASAKI」で仁淀川流域の茶生産農家と仁淀ブルー観光協議会等関係機関を含めた計20名が仁淀川流域のお茶と観光をセットにしたPRを行いました。

イベントは「紅茶テイスティング」や「お茶の淹れ方講座」をメインとし、仁淀川流域のゆるキャラ（もへいくん、ちゃらおくん）の力を借りることでブース来訪者が増加し、仁淀川流域の茶製品や観光への関心を高めることが出来ました。

普及所では流域茶の知名度拡大や茶生産農家のマーケティング能力向上を支援し、小売り拡大による収益改善を支援していきます。

平成30年度第一回高吾地区普及推進協議会



普及所の活動計画説明

6月27日高吾農業改良普及所で、高吾地区農業普及推進協議会を開催し、協議会委員19名が参加しました。普及所は今年度の普及計画を説明し、普及活動の進め方について意見交換しました。

委員からは、「ニラそぐりセンターのカイゼンの取り組みは継続してもらいたい。」「新規就農者が安定して経営できる仕組みづくりが必要。」等活発な意見が出されました。

普及所は、委員のご意見を活動に活かしていきます。

(農)沖名営農組合がショウガの勉強会を開催しました



関係機関と一緒にGAPの勉強

7月3日、(農)沖名営農組合定例会でショウガの勉強会を行いました。組合では今年からショウガを栽培し、JAに出荷する計画となっています。

普及所からは作業ポイントや病虫害対策、GAPに関する注意事項について説明しました。組合員からは「出荷に必要なことなのでしっかり守っていく」との声が聞かれました。その後、今後の作業と役割分担の打合せを行いました。

普及所は今後も関係機関とともに集落営農組織の活動を支援していきます。